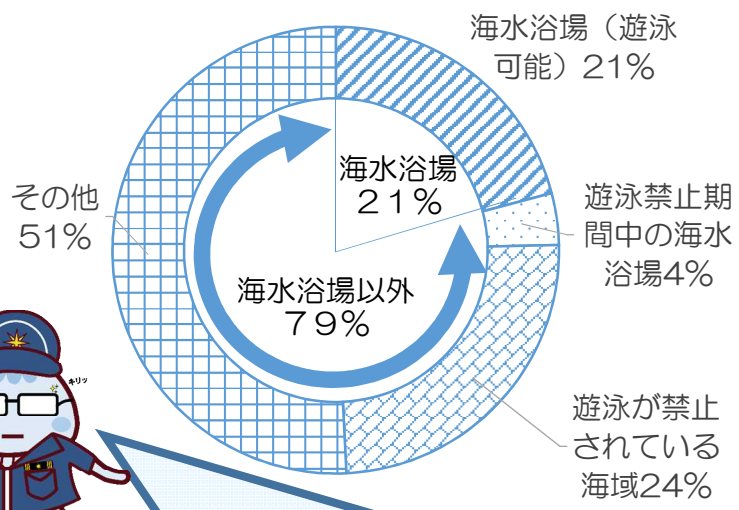
令和５年７月１３日
東京海上保安部

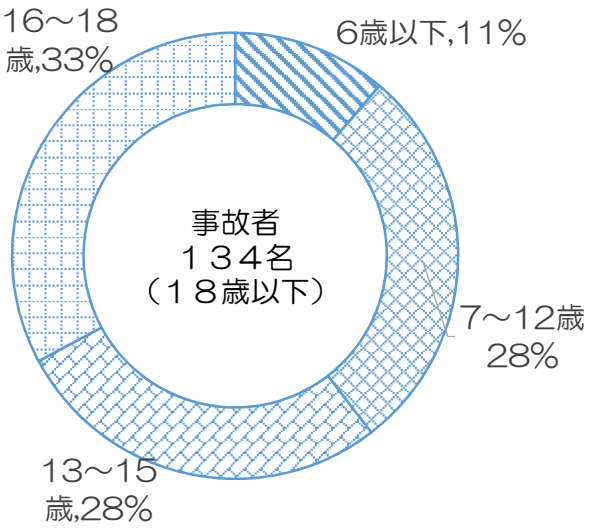
海の事故に注意！

関東海域（茨城県、千葉県、東京都、神奈川県、静岡県）の海浜では、遊泳中の事故が多発しており、その多くは夏休み期間中に発生しています。
過去１０年間(2016年～2022年)における１８歳以下の事故者は１３４名で、そのうち２９名（２２％）の方が亡くなっています。

遊泳場所別割合



年齢別割合



【海浜事故の７９％は海水浴場以外で発生しています！】

○若年齢層（１８歳以下）による海浜事故の分析

発生状況：約８４％が夏休み期間に発生（内訳：７月３２名、８月９１名）
発生場所：約７９％が海水浴場以外の場所で発生（遊泳禁止期間中の海水浴場を含む。）
主な原因：漂流46名（約３５％）、波に引き込まれる４６名（約３５％）、パニック１１名（約８％）
※　事故の約３分の１は、天気の悪い日（強風・波浪の注意報・警報発令中）に発生しました。

○離岸流に注意！
事故発生要因の４０％は離岸流によるものです。

事故に遭わないために・・・

監視員がいる海水浴場で泳ぎましょう。

理由１）海水浴場は、ライフセーバー等の監視が行き届いており、万が一の時の救助体制が整っています。そのため、早期に事故が発見され、迅速な救助が実施されます。
理由２）海水浴場は、安全に遊泳することができる遊泳区域がブイで定められています。

波が高い日は、泳いではいけません。

高い波や強い風の影響で、溺れたり沖合いに流される危険性が高くなります。

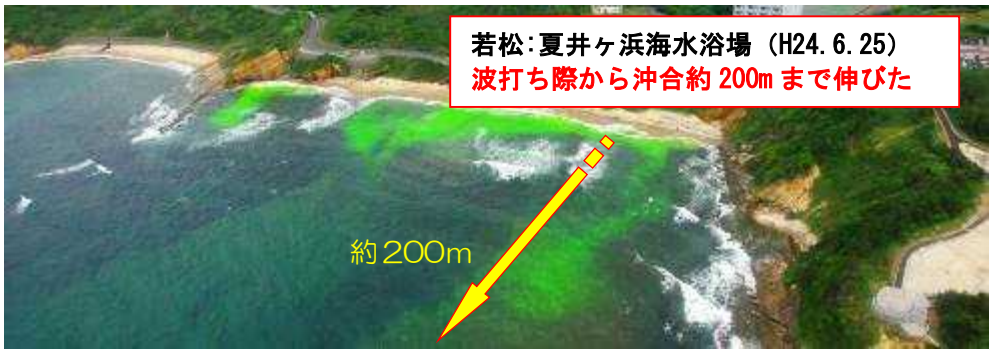
● 離岸流に注意！！

海水浴場や海岸付近では、岸から沖に向かう流れが発生することがあり、これを「離岸流」と呼んでいます。その速さはオリンピックの競泳選手並みになることもあり、海岸であればどこでも発生する可能性があります。「離岸流」に遭うと、水際で泳いでいる人が沖へ“あっという間”に流されてしまうことがあり、大変危険です！

☆「離岸流」からの脱出方法

① 慌てずに、付近の人に救助を求める

② 海岸線と平行に泳いで「離岸流」から抜け出す

「離岸流」の幅はわずか１０m～３０mといわれています。

そのため、岸に向かって（流れに逆らって）泳がず、海岸線と平行に泳ぐと、無理なく岸へ向けて泳ぐことができます。